

「なぜ橋下市長は、大阪市解体を急ぐのでしょうか？」

平成 27 年 4 月 28 日

●うさぎさんからの質問

なぜ、橋下市長は、大阪市解体を急ぐのでしょうか？マスコミは、大阪市解体の大阪都構想の住民投票の前に、橋下市長の嘘を報道するべきだと、思いませんか？そして、橋下市長は、嘘を認め、大阪市解体の大阪都構想を中止すべきです。

●西田昌司の答え

橋下市長は元々タレントでしたし、マスコミを巧みに利用して一方的に自分の意見を捲し立てる術に長けており、マスコミは橋下市長の言説を無批判にそのまま垂れ流しています。マスコミは本来、多角的に大阪都構想を分析・検証し、大阪市民に偏りなく情報を伝える責任があるのですが、マスコミの偏向報道に接した大阪市民は大阪都構想の内容についてよく理解もしていないまま、「空気とノリ」で大阪都構想が可決されかねない危険な状況となっています。

大阪都構想の最大の目的は「二重行政の排除」と言われています。しかし、二重行政の象徴として指摘され続けてきた「府立図書館と大阪市立中央図書館」の例を見ても、どちらも利用者が多く、実際は必要な二重行政です。仮に二重行政があったとして、今まで大阪市内で行われてきた大阪市の行政サービスや投資を削減すれば、大阪市民にとっては全く損な話にしかありません。大阪都構想は「二重行政の排除」という行政の効率化ばかりに主眼が置かれていますが、肝心の「経済の活性化」に対する視点が全く欠けています。

「大阪維新の会」は道州制の導入を主張していましたが、道州制も大阪都構想と同じく「二重行政の排除」を目的とした発想です。道州制を導入すると4兆円もの行政コストの削減が可能と言われていますが、これはすなわち、それぞれの地域で使われる予算が4兆円減ることです。地域で使われる予算を増やしたら経済が活性化する、という話であれば理解できますが、予算を減らしたら活性化するはずがありません。このように考えると、道州制や大阪都構想は根本的な矛盾を抱えた発想であることは誰にでも分かります。「大阪都構想」という名称に惑わされてあたかも素晴らしい構想であるかのような幻想を持たれている大阪市民も多いわけですが、大阪都構想が実現することで一番割を食うのは大阪市民ですし、仮に今回の住民投票が可決されたとしても、国会で法律を通して、さらに大阪府全体で住民投票を実施して可決されなければ、大阪府は大阪「都」にはなれません。

二重行政を解消したとして、余った予算はどうなるかと考えると、大阪府は財政状況が非常に悪いために、大阪府の借金返済に使われる可能性が非常に高いのです。そうすると、大阪市に入っていた税金が大阪市外で使われてしまい、大阪市内のGDPが減ってしまいます。経済学的に考えると、「行政の歳出カットはGDPの押し下げ圧力になる」のは常識です。本来、GDPは国内で産み出された付加価値の総額ですが、GDPを支出面で見ると「政府最終消費支出」「公的固定資本形成」「民間最終消費支出」「民間企業設備」「民間住宅」「在庫変動」「純輸出」の合計となります。行政の歳出カットとは「政府最終消費支出と公的固定資本形成を削減する」ことであり、その結果GDPが減るのは定義上明らかなのですが、その減り分だけを減税したとして、減税した分以上に「民間最終消費支出」「民間企業設備」「民間住宅」「在庫変動」「純輸出」が常に増えるのであれば、『小さな政府』路線で経済が活性化する」と言えるわけです。

「小さな政府」が経済の活性化につながるの考えの下、橋本内閣の「行政改革」や小泉内閣の「構造改革」といった改革が推し進められ、減税や金融緩和もどんどんとされました。しかし、経済がグローバル化している現在、企業は余ったお金を海外に投資するか、あるいはそのまま内部留保として貯

めこんでしまい、国内の需要は増えずに経済がデフレ化して、約 20 年にも渡るデフレ経済から脱却できずに日本は苦しんでいます。これら誤った改革の反省から、アベノミクスでは政府の財政出動を拡大して、実質消費と実質賃金を直接的に拡大する政策を打ち出しましたが、今回の大阪都構想はこれまでの誤った改革をそのまま引き継ぐデフレ促進政策であり、デフレ下で本来やるべき政策とは真逆の政策です。しかし、これまでも「新自由主義」路線を支持してきたマスコミは、大阪都構想についてもその根本的な矛盾を読者・視聴者に伝えていません。

自民党の大阪府連は腰が重く、大阪都構想反対運動を活発に展開しないので、京都府連の会長である私が音頭を取って、近畿ブロックの各県連会長と合同で大阪都構想反対決議をしようと思います。また、大阪都構想の勉強会の開催を連休前までに行うよう、自民党の幹事長・政審会長・総務会長に私からお願いしようと思っています。大阪都構想の内容について理解すれば誰もが反対するでしょうし、党としても一丸となって大阪都構想に No を突き付けるべく反対運動を展開することになるでしょう。私のホームページの「機関紙 showyou」に「第 82 号 (2015/04/20) 大阪都構想が近畿を潰す」という文章を書きましたので、そちらも併せて参照していただくようお願いいたします。

●ゴリラデスさんからの質問

藤井聡さんのヒゲは、とってもチャーミングですね。西田先生もヒゲをはやしてみたらいかがですか？

●西田昌司の答え

20 年くらい前でしょうか、私も西部先生に憧れてヒゲを生やしたことがあります。1 年間程、ヒゲが左右のびんに渡るといふヒゲだらけの顔をしていました。その時の写真がインターネットで探せば出てくるかもしれません。

しかし、思ったほど格好良くありませんでしたので、止めてしまいました。

●名無しさんからの質問

最近、国会中継でお見かけしないので心配しています。どうされているのですか？あまりに鋭すぎて、与党からも干されているのかと、心配しています。

●西田昌司の答え

まことにご心配をおかけしておりますが、そのようなことはありません。参議院予算委員会（注、よくテレビ中継されます）には出ておりませんが、「国民生活のためのデフレ脱却及び財政再建に関する調査会」等の様々な役職を仰せ付かって、国家の大事な問題についての議論をしていますので、ご心配なさらないようお願いいたします。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>